



OCA レポート

2018年3月

2017年10月 台湾・マニラツアー

アジアビート 特集



北野 三保子(さんぼこ)

今回の台湾・マニラツアーを担当しました「さんぼこ」と北野三保子です。今回のツアーは10月28日～11月2日まで台中、台北を11月2日から11月5日までマニラを訪問しました。ツアーに参加したのは日本から19人、台湾から10人とフィリピンから1名、我々スタッフが5名の35名でした。2017年の台湾、マニラ訪問アジアビートプロジェクトを報告します。

サマーキャンプとツアーの準備

5月に台湾キャストとのリハーサルのために台湾を訪れ、今年の台湾キャストに初めて会った時の印象は、少しおとなしめで、ダンスをしたいというキャストが多いのかなというものでした。

その後、8月末に行なったサマーキャンプで、日台比三ヶ国のメンバーの初顔合わせ。最初はそわそわした空気が漂っていましたが、気付けばその緊張はどこかに消え、最初に感じたおとなしさのようなものも全くありませんでした。初日の夜、キャンプファイヤーの残り火のそばで、三ヶ国語が飛び交う恋愛トークをしている皆の姿を見て、このプログラムをやって良かったなと改めて感じたことを覚えています。

キャンプの内容を作る上で気をつけたことは、言葉に頼らなくてもお互いの良さが伝わるようなコンテンツを随所に盛り込むことです。「国籍や言葉をこえた友情」を作るために、言葉のハードルを出来るだけ下げ、ダンスやゲーム等を通して「感覚・楽しさ」を共通言語にすることを大切にしています。そうすることによって、言語レベルが個人のプログラム満足度と比例してしまうことがないように出来ますし、国際交流の楽しさをより体感してもらえと思っています。

サマーキャンプ後、ツアーまではそれぞれの国で各自練習。全国各地から集まる19名の日本人チームは、全3回、各回4～5時間程度の練習＋ワークショップを行いました。日本文化紹介パフォーマンスのアイデア出しから構成まで、お互いのキャラクターを活かし合いながら、文化のバラエティーに富む作品を作り上げました。



それと同時に、自分のことを深く見つめるワークショップや、自分の成長のために良い負荷をかけようというねらいから、「チャレンジゾーン」を設定して発表し合う等、自分の成長のためのプログラムであることを意識してもらおうワークショップも積極的に導入。頭も心も体もフル稼働でツアーの準備に取り掛かりました。

感動いっぱいの台湾、フィリピン訪問

実際のツアーでは、日を追うごとにキャスト同士の仲が深まっていくのを実感しました。たった9日間しか一緒にいられないのだから、目の前の時間を大事にしようという気持ちが伝わってくるようでした。また、今年から導入したチーム別の日直制度が大変良く機能し、お互いの持ち味や得意どころを活かして協力体制を作れたことは大きな成果の一つだと思っています。それが、どんな場所でもたくましく臨機応変さを楽しみ、やり切れるチーム力に繋がったのだと思います。



台中の中臺科技大學では昨年と同様に100人の大学生との交流会を行いました。大葉大学では500人の学生が集まってきて、講堂の階段にまで座って私たちのショーを楽しんでくれました。台北の真理大学ではロックバンドやダンスグループと一緒に100人の学生でダンスパーティーを楽しみました。

台湾でのプログラムを終え、今回初めてフィリピンを訪問しました。ラケールさんに人生のお話をいただいた時、たくさんのキャストが大きい感動と学びを得ていました。ハッとさせられるような言葉の数々は、若者達の人生のどこかで活かされ、壁にぶつかった時に励ましてくれるものとなったはず。そして、特筆すべきはダンスパーティー。あの夜の楽しさと感動は、今回のプログラムを象徴するような大変貴重で思い出深い瞬間となりました。様々な繋がりや機会を作ってくださったフィリピンの皆様への感謝が尽きません。

今年の成果と今後の展開

今後の展望としては、2018年5月の台湾公演に向けて、今までアジアビートを通して築いてきた繋がりを最大限活かし、台湾キャストと共に企画を盛り上げることで、ミュージカル公演の成功はもちろんのこと、自然とアジアビートへの注目も高まるのではということが考えられます。その大きな流れをプログラムの勢い付けに活かす道を模索したいです。また、今後韓国キャストも巻き込んでいくことで、キャストの多様性を広げ、より面白いプログラムが出来るのではないかと未来を思い浮かべています。

ツアーが終わった今でも、LINEを通じたキャスト同士の交流が活発に行われています。これがいつか、今回のツアーの原点である高橋さん達のような「50年間の友情」のスタートだとしたらどんなに素敵でしょうか。それが全くの夢物語ではないのではと思うくらい、素晴らしい友情を築いたプログラムだったと胸を張って言い切ることが出来ます。

今年のプログラムのテーマ「結」。一緒に過ごしたのは二週間にも及ばない短い期間でしたが、キャスト同士の友情は国籍や言葉を超えて、間違いなく強く結ばれたと思います。

例年のものとはまた一味違った感動的なプログラムとなりました。ご支援、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。





高橋 美加(Mika)

最高に peaceful なエンターテイメント的国際交流！

現地の学生と交流が出来たのも貴重な経験で、個人では出来ない海外公演をアジビに参加することによって可能になった。一番驚いたのはマニラで Philippine All Stars(下の写真)に会えて一緒に踊れたことだった。以前米国のラスベガスで開かれた World Hip Hop Dance Championship というダンスの世界大会に日本代表として出場した時に、世界 No1 に選ばれたのが Philippine All Stars だった。彼らの舞台は衝撃的で舞台からさわやかな風が吹いてきたような感じがした。その時のショックが自分の人生観を変えてくれた。その Philippine All Stars のチーム振付師にまた出会えて、なによりも、世界に素敵な仲間、兄弟が出来た(^^)。

ずっと遠回しにして来た語学の勉強もしっかりやって、もっと相手を理解したいし、自分を伝えたい！自分を改めて見直せる素敵な旅でした！



影山 玉実 (らぶみー)

今回のツアーのテーマである「結」。

全ての参加者がチャレンジして繋がった縁を結んだアジアンビート。最終ダンスパーティ前の決意表明の時、私は「信じる」という言葉を選びました。信じられる素敵な出会いに恵まれました。やりたいことを始めるのに遅いという事は無いと思います。

自分の気持ちに正直にやりたいことをいっぱいやりましょう。

心を開いて今に集中し充実した毎日を過ごす事が出来たアジアンビート。自分の心を深く見つめ直す事が出来て、出逢ったみんなから良い刺激を受けて感謝の気持ちに溢れる体験をいっぱいしました。参加を迷っている人がいたら、自信を持って「参加してみて！」と背中を押したいと思います。そこには素敵な出会いの宝が待っています。

私はこれからもアジアンビートでの出逢いを大切にしていきます。

そして、柔軟な心と身体でチャレンジし続けます。

「チャレンジ フォーエバー」が私のテーマになりました。





大家 賢人(まーぼー)

アジアビに参加してまず思ったことは、とにかく行って良かった。言葉も文化も違うのに、こんな簡単に歌と踊りで世界の人と繋がれるとは本当に思わなかった。そして何より思ったことは人と人の繋がりは素晴らしいなと思い感動した。50年前に知り合った繋がりは50年後の私達に感動を与えてくれた。

違う土地、違う生活をしていて、なお繋がっていただける信頼関係。

自分もこの体験で学んだ事も大事にしていきたいし、何よりも人間関係を続けて行きたい。そして50年後に若い人たちに繋げていけたらいいなと思いました。

ちなみに私は全然英語を話せません。

ノリと勢いとコミュニケーション能力しかないが、それでも仲良くなれると自信を持って言える。今回のアジアビートで誰よりも多くの人と繋がったし、誰よりもみんなと仲良くなったと思っている。これからもたくさんの人に参加して欲しいです。



大城ミカ(ミカ)

私は日本人の父とフィリピン人の母の間に生まれ、マニラに住んでいます。アジアビートは今回で2度目の参加となります。今年のアジアビートは、メンバーが家族のように親密な関係を築くことを目指す「ユニオン」というテーマでした。3カ国からメンバーが集まり、まず各国のメンバーが独自のショーを披露し、そして全員で歌い踊る素敵なショーになりました。ショーの練習もあまり厳しくなかったため、メンバー同士で一緒に遊びに行く自由時間がありました。

2度目のアジアビートの参加なので、私はプログラムの流れにリラックスできました。しかし、最初のうちは新しいメンバーと馴染むのは少し難しかったです。次第に初めの数日間に感じた少しの寂しさが消えて、すっかり皆と溶け込めるようになりました。

より多くのメンバーと、歌とダンスによる音楽で情熱を分かち合うアジアビートの目標のもと、このプログラムが毎年続くことを確信しています。私はアジアビートで、高めたコミュニケーション能力を使って、またいつか新しい「家族」と一緒に公演をしたいと思っています。





エリック

今年もアジアビートプロジェクトに参加できて嬉しかった。この旅で歌と踊りの凄さを体感した。参加者は日本、台湾、フィリピンからの3カ国で、文化や言葉が異なっていたが、一緒に歌と踊りでお互いの意思疎通を通して友情を育てることができた。いろいろな場所で素晴らしいショーを披露できた。そして皆と台湾文化についても学ぶことができた。たとえば、夜市、郷土料理、歴史的な寺院や観光スポットなど。

旅の最後の終わりには、フィリピンのラケールから自分の人生に関して、とても有意義なトークショーを聞くことができた。彼女は1960年代のSing Outのプログラムを通じて、多くの友達ができ、旦那さんとも出会いました。そして人生について前向きな態度の重要性を共有してくれました。このプロジェクトに参加することができて本当に良かったと思います。皆とこれからも連絡しあって、友情を続けあえることを信じています。



RAQUEL CALMA
NAKAYAMA さんの
トークイベント

マニラについて2日目ラケールさんのトークイベントを行いました。ラケールさんは50年前15歳で日本に渡り、MRA移動高校、Sing Out Asiaの活動を通じて僕達と友達になりました。それから50年間友情をつなぎ、今回のアジアビートのフィリピン訪問ではアテックさんとともに準備・受け入れを担当してくれました。トークイベントの内容をすべてここにご紹介できませんが、要約すると以下のようになります。

- * 大切なことは正直に生きること、自分を表現していくこと、両親に正直に向き合うこと。
- * 心を大きく開く、思考を柔軟にする。
- * ネガティブにならず、一步下がって考える。
- * 今を大切に、常に感謝する心を持つ。
- * すべての人生にはルーツがある。ルーツに感謝し家族や友人、国、どこにいてもそれを忘れないこと。
- * アジアは自分にとってのルーツであり、未来である。

15歳で生まれ育ったフィリピンのマニラの地を離れ、両親や兄弟と別れ、単身日本に留学。周りの環境や文化、生活の違う中でMRA移動学校 上智大学で学びながらSing Out ASIAの活動に参加。日本各地やアメリカ大陸での音楽活動を通じて多くの友人を作り、人々や異文化に接する中から、身をもって経験したことや、そこから学んだRAQUELの話はとても興味深く、私たちの心に大きく残るものであった。
 (奥村)



連絡先

一般財団法人 MRA ハウス OCA 国際交流事業

〒106-0032 東京都港区六本木 3-15-11

ホームマトウエスト 440 号室

電話 03-6441-3182

ホームページ: <http://www.mrafoundation.or.jp/>

2017 Taiwan / Manila Tour

Participants from Taiwan



Alex
劉子銘
Zi-Ming, Liu



Domi
趙文
Wen, Chao



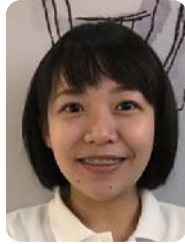
Eating
彭一庭
Yi-Ting, Peng



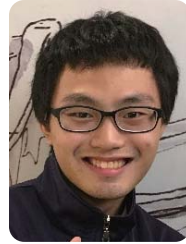
Eric
杜哲旭
Zhe-Xu, Du



Eva
王瀨玉
Jing-Yu, Wang



Gruuu
陳鈺婷
Yu-Ting, Chen



Jimmy
冉啓佑
Chi-Yu, Jan



Julie
吳謹慧
Chin-Hui, Wu



Penny
康文品
Wen-Pin, Kang



Zoe
呂佳璇
Jia-Syuan, Lyu

Participants from Philippines



Mika
Mika Oshiro



Gab
Gabriel
Mendoza



Paulo
Gerald Paulo
Mendoza

2017 Taiwan / Manila Tour

Participants from Japan



Aimi
山下 愛
Aimi Yamashita



Akki
中山 彰仁
Akihito Nakayama



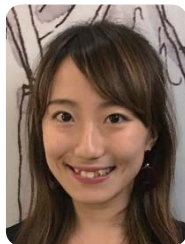
Ban Ban
伴 捷人
Hayato Ban



Chibaron
千葉 耕平
Kohei Chiba



Harupe
竹之内 春香
Haruka Takenouchi



Hi chan
片瀨 瞳
Hitomi Katafuchi



Hinako
藤本 日菜子
Hinako Fujimoto



Hiro
富樫 弘考
Hironori Togashi



Love me
影山 玉実
Tamami Kageyama



Ma-Bo
大家 賢人
Masato Oya



Mika
高橋 美加
Mika Takahashi



Mina King
檜松 美奈子
Minako Naramatsu



Nyao
門脇 菜生
Nao Kadowaki



Og
迫 裕樹
Yuki Sako



Sachi
下田 さち
Sachi Shimoda



Saito
齊藤 翔
Sho Saito



Seattle
山瀬 加奈
Kana Yamase



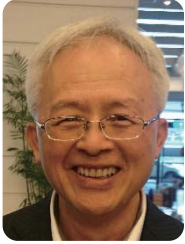
Yui
久米 唯
Yui Kume



Yo chan
植木 洋子
Yoko Ueki

2017 Taiwan / Manila Tour

Special Thanks to



David
林定三
David Lin



Robert
陳建舟
Robert Chen



Ken
林添進
Lin, Tien-Chin



Ying san
尹士芬
Ying, Shu-Feng



Paul
黃凌軒
Ling-Hsuan Huang



Atek
Atek Jacinto



Raquel
Raquel Nakayama



Claire
黃榆喬
Yu-Chia, Huang



Ryo
安達亮
Ryo Adachi



Akiyama
秋山泰三
Hiromitsu Akiyama

Organizers



Takahashi
高橋信幸
Nobuyuki Takahashi



Ted
我妻宣忠
Noritada Agatsuma



Boo
奥村康治
Koji Okumura



Sampoko
北野三保子
Mihoko Kitano



Momo
星野桃子
Momoko Hoshino

This project is financed by MRA Foundation

